

実践報告

札幌市立常盤小学校

(1) 研究内容

研究課題：「サップロピリカコタンを活用した学習の研究」

- 展示物や施設を見学し、アイヌ文化と歴史についての一層の理解を図る。

(2) 実践の内容

人権意識は相手理解が大切という考えから、4年生の社会科と関連させて事前にアイヌ文化や歴史を学習し、その理解の深化を図るため、札幌市アイヌ文化交流センター「サップロピリカコタン」の展示物の見学やアイヌの方々と交流する取組を行った。

【実践①】ピリカコタン活用授業の事前・事後学習について

○ ねらい

- ・ サップロピリカコタン活用の学習のため、事前に施設の概要を知る。
- ・ 社会科に於いてアイヌの暮らしと文化、歴史についての基礎的な知識を得る。
- ・ 事後に、見学したことをまとめ、理解を深める。

○ 学習内容

社会科で、アイヌについての学習を行った。基本的なアイヌ語やアイヌの暮らしでは主に狩猟を行って暮らしていることや自然と共に生活を送るライフスタイル、全てのものを神とみる考え方など、アイヌ独特の文化について基礎的な知識を学習した。

サップロピリカコタンの施設について、どのような展示をしているかなどを調べ、自分が知りたいことを明確にし、何を見に行くかなど、目的意識をもって見学に臨めるようにした。

訪問学習の事後に、これまで学習してきたアイヌ文化に関わる題材（アイヌ文様・アイヌ語など）をしおりにまとめ理解の深化・発展・定着を図った。



【実践②】サップロピリカコタンを活用した取組について

○ ねらい

- ・ 体験活動を通じてアイヌ文化に親しみ理解の深化を図る。
- ・ アイヌの方々と交流を通し、人権意識の確立を図る。

○ 学習内容

アイヌの民具等の実物に触れたり、歌や踊りを体験したりするプログラムを活用した取組を行うことで、アイヌ文化に親しみ、アイヌの暮らしを実感することができた。またアイヌの方々と実際に交流することで、アイヌの方々の思いや願いを知ることができた。



(3) 研究のまとめ

① 成果

- 教科書の中でしか見たことのないアイヌの道具や衣類を実際に見ることが出来る経験はとても有意義であった。衣類などの手触りを感じるなど、手に取って触れることのできる展示が、子どもたちにとってより身近に感じるものになった。
- 子どもの遊びを体験することで、当時の子どもの気持ちを感じるとともに、遊びが狩猟の練習となっていることを知り、生活に結び付いていることを理解した。
- 「木の皮でできた服」、「サケの皮でできた靴」など子どもたちにとって想像もつかないものを見ることができた。



② 課題

- 子どもたちの興味の多くは、アイヌ語であった。その他の文化に目を向けさせるには、教科書や本などの資料だけでは足りないと感じた。理解を深めていく上で、実際の物やアイヌの人との直の交流が必要だと感じた。
- アイヌの人々が人権に関わってどのような問題を抱えているのか、子どもたちが理解するのが難しい。人権意識を高めるには、実際に困っていることや差別を受けていることを情報としてお話していただけると、人権について考えるきっかけとなるのではと感じた。

③ 提言「人権教育のすすめ」

本などの資料でしか見ることのなかったアイヌ民族の民具等に触れたり、人と実際に交流したりすることで、より親しみを感じ、現実感をもってアイヌのことを語れる子どもたちになると考える。中には、アイヌはもう存在しない歴史上の存在と感じている子もいる。現在も自分たちと同様に生活を営んでいることを理解させたい。

身近にアイヌの方がいても偏見をもった目で見ることなく、他の人と同じく接することのできる意識をより一層育てていきたい。

子どもたちは資料などで得た知識しかもっておらず、深く理解するまでは至らない。また、子どもたちに人権意識をもたせるのは難しい。まずは「アイヌのことを知ること」「文化や考え方を理解すること」を大切にしていきたい。

今回、アイヌの方との交流で現在のアイヌの方々の思いや願いにふれることができた。このように、相手を理解するには、直接交流をもつことが必要だと感じた。このような機会がもてるサッポロピリカコタンの活用は、とても有意義なものだと考える。

